

「雨の日と月曜日は」

昨年5月2日に私が高松市長に就任して、1年が経過しました。この間、本当にいろいろなことがありましたが、市民のみなさんの多大なるご理解とご協力もあり、高松市政が、おおむね順調に推移してきているのはありがたい限りです。

当然のことではあります。市長になって、仕事の内容も、日々の生活もそれ以前のものとは、一変しました。そんな中で、自分の心持ちの一つの変化として、「雨の日と月曜日は」という往年のヒット曲になぞらえて言えば、雨の日や月曜日もそう嫌ではなくなった、ということがあります。

まず、雨の日。空模様と同様に、気分が暗くなるという人は多いのでしょうか、特に私は不精なせい、傘を差すのがとにかく億劫で、雨の日は大の苦手でした。また、思い込みもありますが、「晴れ男」を自称していました。

しかし、それも良し悪し。昨夏の渇水時期には、本当にやきもきしました。史上最速という5月24日に早明浦ダムの取水制限が行われるという緊急事態に、市長就任初年度から大渇水かと、いつもは自慢している自身の「晴れ男」ぶりを嘆いたものでした。水不足は、7月中旬に、これも異例の時期に上陸した台風4号のもたらした降雨で、どうにか解消となりましたが、今一度、水源確保対策と水利用のあり方の見直しの必要性を痛感した出来事でした。それ以来、雨の日も良いものだ、と思えるようになりました。

そして、月曜日。私は、大学を出て、旧自治省という役所に入り、東京の霞ヶ関とともに、全国各地で勤務をしてきましたが、いずれも一般職の公務員としての生活で、単身赴任の経験も含め、いわゆるサラリーマンの日常生活を過ごしてきました。仕事が嫌いだっただけじゃないのですが、宮仕えの身では、週末の土日の休みをのんびり過ごした後の月曜日は、憂鬱になることもありました。

それが、市長になると、土日といっても、イベントや行事などに参加することが多く、休みという感覚がなくなりました。その分、月曜日は、デスクワーク主体の日常業務に戻る日ということで、その切り替えが逆に嬉しく、張り切って仕事に向かえるようになりました。

「雨の日と月曜日は、いつも憂鬱になるの」、と歌うカーペンターズの古いLPレコードを聴きながら、今は、そんな日々を懐かしく思い返しています。